

心が躍る 唄が響く

旧盆や旧暦八月十五夜が近づくと、どこからともなく聞こえてくる三線や太鼓の音色。そして、練習のために公民館に集まった老若男女の笑い声。これらの音を聞くと、もうそんな時期なんだと気付く。遠い昔から変わらない八重瀬の響き。



臼太鼓

女性だけの集団祭祀舞踊。唄われるうたは男女の交遊や土地のことがらなどが唄われる。八重瀬町では世名城と安里で行われ、それぞれウステーク、ウフデークとその呼び方も異なる。



富盛の唐人行列・大和行列・女行列

毎年旧暦の八月十五夜の豊年祭に、地域が南北に分かれ、北は「唐人行列」南は「大和行列」女性による「女行列」と道ズネーが行われる。



綱引き

豊年を祈る行事。八重瀬町では宜次、小城、志多伯、東風平、世名城、高良、富盛、具志頭、安里で行われており、引く綱の時期は六月ウマチー、旧盆、八月十五夜と地域によって異なる。



新城シーヤーマー

女性による集団舞踊。昔、新城近くに自生していた椎の木から、椎の実を拾い終えた女性たちが遊び興じる所作が舞踊化されたもの。現在はお祝いの場などで踊られる。



組踊

組踊は1719年玉城朝薫により創作され琉球王府で中国からの使節・冊封使を歓待する饗宴の場で上演された。八重瀬を舞台にした組踊もいくつかあるが、近年「身替忠女」と「夫婦縁組の巻」が再現の機会を得て復刻され保存されている。



棒術

綱引きのときに行われ、一定の型で激しい打ち合いをする。その威勢によって災難を払うとされる。八重瀬町では小城、志多伯、当銘、宜次、友寄、東風平、世名城、富盛、玻名城、安里で行われている。



当銘・小城の龕甲祭

龕(がん)とは、遺体を納めたひつぎを乗せる輿のことで、当銘・小城の両地区では、龕を共有し大切に保存している。この龕の年忌祭が龕甲行列といわれるのもで、死者供養の年忌と同様に1、2、3、7、13、25、33年ごとに行われる。

獅子舞

沖縄各地に古くから伝わる芸能。豊年祭や厄払いの行事で演じられる。八重瀬町には友寄、東風平、志多伯、玻名城に伝わっておりそれぞれ違った特徴をもっている。

- 【網引き】
 東風平：毎年旧暦七月十六日
 富盛：七月綱「旧暦七月十三日(ウンケー)・十五日(ウークイ)」「十五夜綱」旧暦八月十五日
 世名城：毎年旧暦七月十六日
 高良：七夕綱「旧暦七月七日、ウンケー綱」旧暦七月十三日
 志多伯：ウマチー綱「旧暦六月十五日」「七月綱」旧暦七月十五日
 当銘：旧暦六月十六日・旧暦七月十五日
 小城：旧暦六月十五日・旧暦七月十四日
 宜次：旧暦七月十六日
 友寄：旧暦七月十五日
 安里：毎年旧暦八月十五日に最も近い日曜日
 具志頭：三年ごとの旧暦八月十五日
- 【祭祀舞踊】
 世名城のウステーク：毎年旧暦八月十五日
 安里のウフデーク：毎年旧暦七月十七日
 新城のシーヤーマー：不定期
 富盛の唐人行列・大和行列・女行列：毎年旧暦八月十五日
- 【エイサー】
 富盛：旧暦七月十三日・十四日
 具志頭：旧暦七月十三日・十四日・十五日
 新城：旧盆の週の日曜日・土曜日
 安里：旧暦七月十三日・十四日
 港川：旧暦七月十三日・十六日
 長毛：旧暦七月十三日・十四日
 東風平：旧暦七月十三日・十四日

【獅子舞】

- 友寄：毎年旧暦八月十五日
 東風平：毎年旧暦八月十五日・十六日
 志多伯：年忌ごとの旧暦八月十五日
 玻名城：毎年旧暦七月十六日・八月十五日

【棒術】

- 東風平：毎年旧暦八月十五日
 富盛：毎年十五夜行事時
 世名城：旧暦八月十五日
 志多伯：獅子加那志の年忌ごとの旧暦八月十五日・十六日
 当銘：龕甲祭の年忌ごと旧暦八月十日
 小城：龕甲祭の年忌ごと旧暦八月十日
 宜次：綱引、納涼祭時
 友寄：旧暦八月十五日
 安里：安里の綱引きと同日
 玻名城：玻名城の獅子舞と同日